



# 県病医療ニュース

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら



## 消化管内科

# 胃がんの原因？ ～ピロリ菌を知っていますか？～

### ■ ピロリ菌？

皆さんはピロリ菌についてご存知でしょうか？ 人間の胃の中にいて、胃酸のなかでも生きていける細菌です。胃潰瘍、十二指腸潰瘍や胃がんなどの病気と関係があることがわかっています。

昔は日本人の半数以上が感染していましたが、現在は4～5人に1人が感染していると推測されています。年齢による感染率に差があって、若い人の感染率は低下してきています(図1)。

### ■ どうやって感染するの？

ピロリ菌の感染は、だいたい5歳位までに成立し、大人での感染はほとんどないと考えられています。上下水道が整っていなかった時代には、井戸水などによる感染もあったと思われませんが、生活環境が良くなった現在はヒトからヒトへの感染、特に家庭内で親から子供に感染することが多いと考えられています(図2)。

ピロリ菌は感染している人の唾液中にも認められているため、小さい子供への口移しや、同じ箸・スプーンを使って食事を与えることによって感染することがあります。

### ■ 胃がんの原因？

われわれ日本人にとって、非常に関係が深い胃の病気に、胃がんがあります。胃がんは日本人のがん死亡者数第3位であり、一生で男性の10人に1人、女性の21人に1人が胃がんになるといわれています。日本人の胃がんの9割以上はピロリ菌が原因と考えられています。

世界保健機関(WHO)はピロリ菌を治療(除菌)することにより3～4割予防できると報告しています。

### ■ 検査方法は？

保険診療では、内視鏡検査(胃カメラ)を受けた後にピロリ菌の検査を行います。胃カメラはピロリ菌の検査だけではなく、胃がんの早期発見にもつながりますので一度は胃カメラを受けることをお勧めします。

### ■ 治療方法は？

3種類の薬を1日2回、1週間飲むだけで治療ができます。10人中8～9人は1回の治療でピロリ菌がいなくなります。いなくなる場合もありますので、必ずなくなったかどうかの検査を受けてください。保険診療では2回目の治療まで可能です。

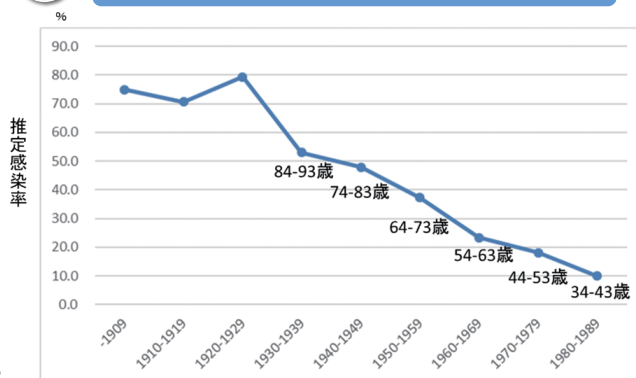
### ■ ピロリ菌の検査や治療の時期は？

除菌治療の時期が早いほど胃がんを予防できる効果が高いと考えられていますので、早めの検査と治療をお勧めします。

(消化器内科 部長 沖本 忠義)

図1

生誕年とピロリ菌推定感染率の関係



下の1)～6)より作成  
 1) Jemura N, et al. *Al Engl J Med*;2001;345:704-108  
 2) Matsuo T, et al. *Helicobacter*;2011;16:415-9  
 3) Asaka M, et al. *Helicobacter*;2010;15:1-20  
 4) Shintzu N, et al. *Cancer Res*;2003;63:1513-4  
 5) Jemura N, et al. *Cancer Epidemiol Biomarkers Prev*;1997;6:639-542  
 6) Fukase K, et al. *Lancet*;2003;372:292-297

図2

感染経路(口-口感染)

#### 小児において

- ◆ 約80%程度は家族内感染  
(約70%は母子感染、約10%は父子感染)
- ◆ 約20%程度は家族外感染

今野武津子ら、日本ヘリコバクター学会誌、4.20-24.2003



産科

# 出生前検査を知っていますか？

生まれてくる赤ちゃんに何らかの変化(病気)がある割合は、  
妊娠中または出生後にわかる両方を合わせて3-5%とされています。  
妊娠中におなかの中の赤ちゃんに変化があるかどうかを  
調べることを出生前検査と言います。



今では妊婦健診で普通に行われているエコー検査も出生前検査の一つです。しかし、一般的なエコー検査は赤ちゃんの成長の確認が目的であり、出生前診断として行う胎児超音波検査は時間をかけて赤ちゃんの形(頭、骨、内臓の形等)を確認していく必要があり、全く別の検査と考えられます。

赤ちゃんの生まれつきの病気にはたくさんの種類があり、大人と同じで病気になる原因も様々です。身体の形の情報の地図のような役割を果たす染色体や遺伝子の問題のように、赤ちゃんがもともと原因を持っている病気もあります。また原因がはっきりせず、いろいろな複数の要因が複雑に絡み合って起きる病因も少なくありません。

ほとんどの生まれつきの病気は、発生率と年齢の間に関係がないとされています。

その中で、21トリソミー(ダウン症)、18トリソミー、13トリソミーなどの染色体が3本ある病気は妊婦さんの年齢が上がると発生率が上がることが知られています。

当科では年齢の高い妊婦さんや胎児エコーで気になる所見がある妊婦さん、以前染色体変化のあるお子さんを妊娠されたことのある妊婦さんから採血を行い、その3つの染色体の変化の可能性が高いかを調べるNIPT(非侵襲性出生前遺伝学的検査)を行っています。事前に出生前検査についてのカウンセリングを必ず行いますので、ご希望される方はかかりつけ医の先生にご相談ください。

(第二産科 部長 後藤 清美)



看護師ほか医療スタッフの  
臨時職員を募集しています。  
詳しくはこちら